

論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル: Survey of motivation to participate in a birth cohort

和文タイトル: 出生コホート参加へのモチベーションに関する研究

ユニットセンター(UC)等名: 千葉UC
サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Journal of Human Genetics

年: 2016 月: 9 巻: 61 頁: 787

筆頭著者名: 山本 緑
所属UC名: 千葉UC

目的: 出生コホート調査の参加継続要因に関する知見を得るため、「研究プロジェクトの理解度」および「リスクや負担への不安」を参加意欲の関連要因として着目し、参加動機との関連を明らかにするための分析を行った。

方法: 千葉ユニットセンターの全参加者に対し、郵送による質問票調査を実施した。参加動機 11 項目、理解度 21 項目、不安 5 項目の回答について因子分析を行い、参加動機は4因子(貢献、信頼、情報、金品)に集約できた。クラスター分析を用いて、参加者を参加動機の傾向が異なる4つの集団に分け、理解度6因子、不安2因子の点数を比較した。

結果: 参加動機は、「自分の子どもや孫のため」「謝礼」「よい環境づくりのため」が多かった。調査の目的や内容の理解については、回答者の 30%以上が不十分と感じていた。回答者の14%が個人情報漏れのリスクを感じ、13%が協力に負担を感じていた。「金品は動機ではない」集団は「全体に動機が強い」集団と比べて年齢層が有意に高かった。「全体に動機が弱い」集団と「金品が主な動機」の集団は、「全体に動機が強い」集団と比べて理解度が低く、プライバシーや負担への不安が強い傾向が見出された。

考察:(研究の限界を含める) 研究についての理解不足や情報漏洩の不安、協力の負担を感じている人が相当数みられた。全体的にモチベーションが低い参加者や金品のみが動機になる傾向が強い参加者は、研究についての理解不足と不安が強い傾向が見られた。このような集団は、調査から脱落する可能性が高いと想定される。調査参加のモチベーションを維持し、脱落を防ぐためには、研究の意義を理解し、情報の取り扱いへの不安を軽減するような情報提供を、継続的に実施することが必要と考えられる。本研究の限界として、全体調査と連結可能な方法をとらなかったため、エコチル調査からの脱落や社会経済的状況との関連は調べることができなかった。

結論: 全体的にモチベーションが低い参加者や金品のみが動機になる傾向が強い参加者は、研究についての理解不足と不安が強い傾向があることが明らかとなった。研究参加時の説明だけでなく、フォローアップ時においても、参加者への説明の機会を設けることにより、研究についての理解不足や不安に対処する必要性が示唆された。